

移学

CONCEPT

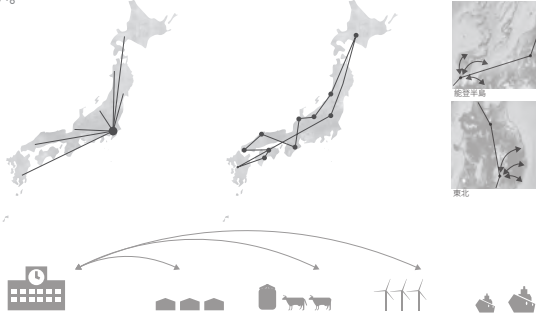
都心部への教育機関の集中は地方の衰退の一因である。現在の大学の多くは都市部に集中しているため、大学進学を期に都市部に移り住み、そのまま都心で就職、結婚し、地方へ帰らない若者が多い。

もし、地方にも都市圏と同等の大学が存在していれば地方から都市部への若者の流出を和らげることができるのではないだろうか？地方の良さは実際に暮らしてみないと体感できない。地方で学業を糧に暮らすことで、地方に興味をもつキッカケを作りたい。

地方分散型大学

日本中に点在し、多地域に置ける学生の一時的な生活拠点、学習環境として活用され、さまざまな地域から来る学生と地域に住む住民も出会いの場となる。学生ドミトリを主体とした生涯学習空間として機能し、大学としての学生寮、教育スペース、ワークスペース、公共施設としてのメディアセンター、銭湯を内包している。

学生は大学を拠点にして、近隣の村や浜に出かけ、独自の調査、研究を行う。大学設備や宿場を利用する事で、短期間の調査ではなく長期滞在を視野に入れた調査を行う事ができる。長期に渡り地域と関わる事は調査の向上だけでなく、地方の魅力を引き出すために重要である。



高橋拓海
福屋研究室

設計主旨

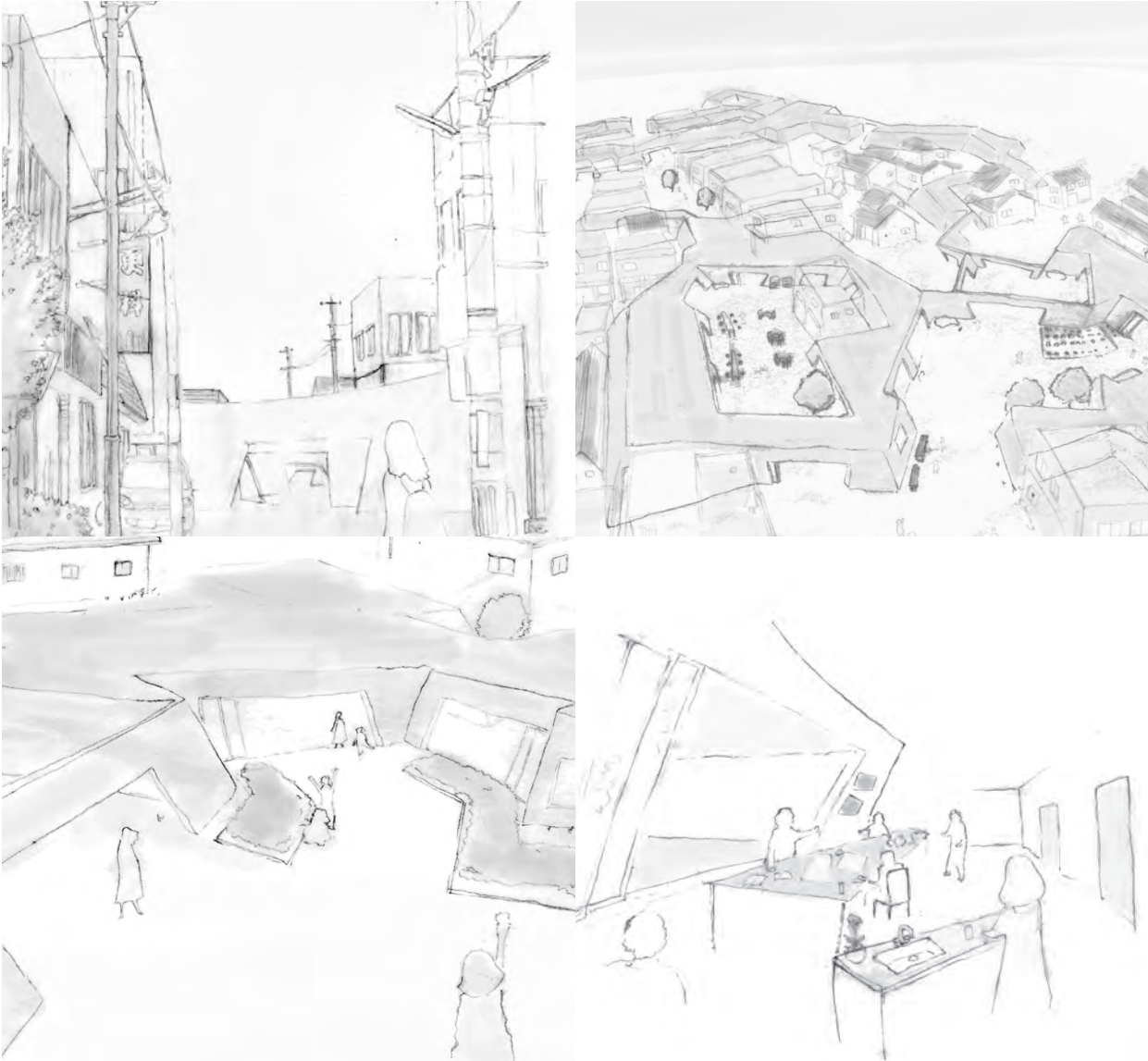
私は進学を期に仙台で暮らし始めた。

一度地元から外に出たからこそ、出身地が街として如何に衰退してきているのか気付かされた。

なぜ地方は衰退するのか？なんとなく元気が無い自分の暮らした街を少しでも元気にしたいと思った。

情報技術の発達により場所を問わず教育を受ける事や、情報を得る事が容易な社会。教育機関に宿場機能を付加し、地方の駅前空地を活用した多拠点型の地域分散型大学を提案する。

学生はドミトリを備えた大学を移住しながら、日本中の地方の場所性を探る旅に出る。



PLAN



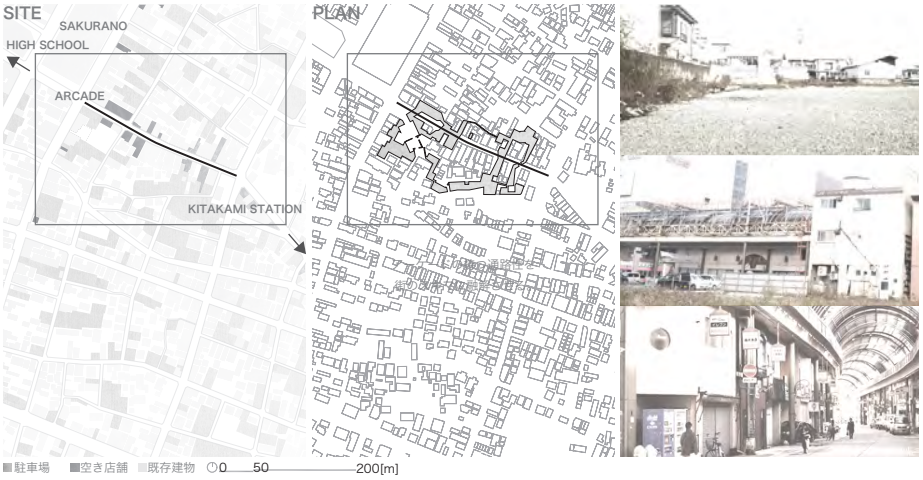
岩手県北上市諏訪町

人口10万人の北上市。北上川沿いに位置し、旅路の拠点宿場街として昔から栄えて来た。

現在でも岩手県の内陸部の流通の中核として機能し、市外からの求職者も多く、震災後は南三陸等への復興支援活動の拠点としても機能している。昔から物流の拠点として機能して来た街を、学生の活動拠点として再定義。



商店街の多くは駅前など利便性の高い地域に位置し、昔から商業地域、宿場街として栄え、人の活動の拠点として暮らしの中心に位置していた。これら周辺との立地関係において、高い可能性持つ商店街の空き店舗や駐車場に地方分散型大学を挿入し、商店街と共に共生していく大学を提案する。



DIAGRAM

